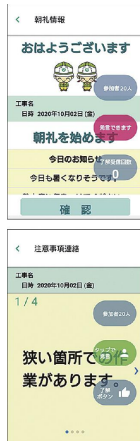


2020年10月12日 3面

文字サイズ 小 中 大 ブックマーク 印刷

大林道路ら3社／工事関係者向け朝礼アプリを開発／スマホ使い遠隔で朝礼



各自がスマートフォンの画面を確認しながら、通常通り朝礼を実施できる

大林道路、Intelligent ACORN（千葉県松戸市、一岡義宏代表）、システム・クリニック（神戸市東灘区、菅沼直昭社長）の3社は、工事関係者が遠隔で朝礼を実施できる「朝礼アプリケーションソフトウェア」を開発した。1カ所に集合しなくても、スマートフォンを使って遠隔で写真などを交えた作業指示や安全指示ができる。9月から大林道路の現場で試行導入した。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、建設業では1カ所に多くの作業員が集合する朝礼の在り方を見直す動きが出ている。アプリは現場や室内など、職員や作業員が別の場所で3密（密閉・密集・密接）を避けて安全に朝礼することを目的に開発した。

複雑な操作がなく、マニュアルがなくても感覚で容易に使える点が特長。アプリはプロジェクトごとの番号と参加者の名前を登録すると朝礼に参加できる。アプリに参加すると主催者、参加者に現在の参加人数が表示され、全員が朝礼に出ているかどうかを確認できる。朝礼終了後は参加者がボタンをタップすると参加時刻と名前がクラウドに保存される。

現場で実装しているコンテンツは▽ラジオ体操▽写真を使った当日の作業箇所の確認▽当日の作業内容と安全注意事項の確認▽職員による連絡事項▽安全コール▽グループごとのKY活動記録▽グループごとの作業方法、注意事項の確認ーなど。朝礼中に主催者、参加者が発言することも可能で、双方向のコミュニケーションを図れる。

今後はウェブカメラを接続して遠隔で安全パトロールを実施できるようにしたり、携帯端末の位置情報を取得して立ち入り禁止エリア侵入時に注意喚起する機能を実装したりするなど、機能の充実化を図る。

記事ID：3202010120302

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます